

## 子どもの社会性を促進する運動遊びゲーム

—ボウリングを題材として—

伴 貴英

キーワード：遊び，運動遊び，社会性

Exercise of child play game to promote social nature

—Bowling as a subject—

Ban Takahide

Abstract

I feel lack of the social nature of the child as a study background. The relation with others is poor. I do not understand how to contact others. I think that the children who are not going to associate with others increased. I think about only one's thing and act. The child who does not think about others. Important power is not brought up while I walk the life. It is fun for a play sense. If there is such an education method; for children. It is not forced on an adult. I enjoy it by oneself and play. It is thought that I can wear social nature this research. As an exercise play game. I take up bowling. This bowling M prefecture in a special support school. It is an exercise play game carried out traditionally from opening of a school those days. Why many years bowling. Is it taken up in M prefecture special support school? I want to elucidate the reason scientifically.

Key words: Play, Exercise play, Sociality

## 目次

第 I 章	序論
1 節	研究背景
2 節	研究目的
第 II 章	先行研究
1 節	社会性
2 節	運動遊び
3 節	社会性と運動遊びの関連性
第 III 章	研究方法
1 節	対象者
2 節	参与観察
第 IV 章	結果
1 節	実践結果
2 節	考察
第 V 章	おわりに
1 節	まとめ
2 節	今後の課題
参考引用文献	

## 第 I 章 序論

### 1 節 研究背景

研究背景として子どもの社会性の欠如を感じる。他者との関わりが乏しく、他者との接し方が分からない、他者と関わろうとしない子どもが増えたように思う。自分のことばかりを考え行動し、他者のことを考えることをしない子ども。人生を歩んでいく中で大切な力が育まれていないのではないのか。

### 第 2 節 研究目的

これからの学校教育の現場は、文部科学省の推進する「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」(文部科学省 2012<sup>23</sup>)が進められていくことになっていくと予想される。一人一人にあった教育ニーズがあり、それに応えていく必要がある。障害がある人もない人も共に学ぶ環境を作る為には、どのような教育をしていく必要があるのか

を考えた。多様な学びの一つとして、「遊び」を取り入れていきたいと考えた。遊びは子どもが成長していく中で様々な経験をもたらすことができるのではないのか。

本研究では、運動遊びゲームとして「ボウリング」を取り上げる。この「ボウリング」は M 県特別支援学校において、開校当時(昭和 53 年)から伝統的に行われている運動遊びゲームである。特別支援学校において長年続けられているのには理由があるはずである。何故、長年「ボウリング」が M 県特別支援学校において取り上げられているのか。その理由を科学的に解明していきたい。

## 第 II 章 先行研究

### 1 節 社会性

本研究では、「遊び」で子どもの社会性を促進することを目的としており、そこで重要となる「社会性」について先行研究の読み込みを行った。それらを整理しながら、本研究の解くべき課題とその視角を策定していく。

現代社会を生きていく上で人と関わらずにはいられない。人と関わって生きていく必要がある。人と関わって生きていく力として「社会性(ソーシャルスキル)」が必要となる。

### 2 節 運動遊び

本節では、運動遊びに関する先行研究を整理していく。まず、本研究の要である遊びに関する論文と運動遊びに関する論文を中心に、先行研究の読み込みを行った。それらを整理しながら本研究の解くべき課題とその視角を策定していく。

### 3 節 社会性と遊びの関連性

本節では、社会性と遊びの関連性について、先行研究の読み込みを行った。それらを

整理しながら、本研究の解くべき課題とその視角を策定していく。

### 第Ⅲ章 研究方法

#### 1 節 対象者

本研究の対象者として、M 県特別支援学で参与観察を行った。

M 県特別支援学校

M 県特別支援学校の中学部 1 年生、男子 8 名、女子 1 名の計 9 名「障害種別は自閉症 5 名、ダウン症 2 名、精神発達遅滞 2 名」を対象にした。2016 年 6 月 13 日から 6 月 24 日までの 2 週間、特別支援学校教育実習の際、参与観察を行った。数学科の授業では 3 回ボウリングを行った。

数量面では、1 位数の繰り上がりがない足し算ができる生徒、数を数えられる生徒、遊びや生活の中で数概念を理解しつつある生徒等、個々に理解の差がある。

以上が本研究における参与観察の対象である。なお、本研究での社会性は、自分の順番を知ることやルールを守って活動すること、日常生活と数学と関連した生活する上で欠かせない存在である数や数量の概念とする。

#### 2 節 参与観察

M 県特別支援学校

2016 年 6 月 13 日から 6 月 24 日までの 2 週間、筆者は特別支援学校教育実習の際、参与観察を行った。中学部 1 年を担当し、日常生活の指導や教科指導の際に子ども達の生活の様子を観察し、数学科の授業では 3 回ボウリングを行い、学習指導案に取り入れた。

運動遊び－ボウリング－について

ボールやピンを見る、ボールを転がすとピンが倒れるという因果関係を知る、遊びのマナー、順番、思いやり、計算、集中力、自分の番まで座っていられる自制心、ボー

ルを転がして遊ぶ、運動発達など、ただ遊ぶのではなく、社会性というスキルを遊びの中で生徒が自ら獲得することができる。遊びを通して、社会性を学ぶことができる。

ボウリングはゲーム感覚で楽しく取り組むことができ、倒したボウリングのピンを数えることで数量の概念を学ぶことができる。また、倒したボウリングのピンを友達と比べることで、競争しながら楽しく数の比較をすることができる。また、自分の順番を知ることやルールを守って活動することで、日常生活と数学と関連した社会性(ソーシャルスキル)を獲得することができる。ボウリングは、生活する上で欠かせない存在である数や数量の概念について、興味・関心を持たせながら教えることができる良い教材である。今回は 6 本のピンを使用し 6 までの数を数えさせることにより、数の概念を捉えさせることを目的とする。

通常のボウリングは 10 本のピンを倒すゲームであるが生徒の実態として、10 を超える数の計算ができないこと。また、10 までの数の概念が身につけていないこと。10 までの数の概念が身につけていない子には、まず 6 までの数と量を一致させることを目的とした。

数を量として捉えられるように、1～6 までの(数えるボックス)を使用し、一目で数が分かるような工夫をした。倒したピンをピンボックス(数えるボックス)に入れてピンを数える。皆で声を出して、一緒に倒れたピンの数を数える。

\*数えるボックスについて

1～6 までの数字が書かれたボックスを 1 つずつ、合計ボックスを 6 箱用意し、ピンを差し込み、全体が見えるようにした。また、視角的に分かりやすいようにピンを差し込む場所に、赤いテープで目印を取りつけた。

## 第Ⅳ章 結果

### 1節 実践結果

今回の授業のねらいでもある「ボウリングを通して数量に関心を持たせること」「数量概念の基礎を培うこと」は、倒したピンと同じ数のボックスを選ぶことで、途中間違えたら自分でもう一度考えて、ボックスを選び直すことができた。

倒したボウリングのピンの数を数えるという数概念の理解に必要なことを教員の支援を受けながら全員が達成することができた。普段、遊びにも取り組むことが苦手な生徒もいたが、ボウリングでは、他の生徒と一緒に楽しみながら取り組むことができた。

自分の点数と他の人の点数を比べ、自分の点数が負けていると気がつくと悔しがむ姿が見られた。みんなで倒れたピンの合計を考え、みんなで一緒に倒れたピンの合計を数えることができた。

以上のような参与観察の結果から、子どもの社会性、子どもの社会性を促進する運動遊びゲームとしてボウリングが有効であることを明らかにすることができた。

### 2節 考察

3回のボウリングの授業実践。先行研究の論文。特別支援学校で勤務する先生の実践知。様々な知見を集め、授業としてデザインし、実践する中で、授業回数を重ねるごとに、修正点があり、試行錯誤を繰り返してよい授業になる。

授業を重ねるごとに、戸惑っていた生徒もルールを覚え、楽しく、ボウリングという遊びに夢中になった。これらのことからボウリングという運動遊びは、子どもの社会性を促進することができると考えられる。

## 第Ⅴ章 おわりに

### 1節 まとめ

数学科の授業で行ったボウリングは、子

どもの興味関心を刺激し、数量の概念を学ぶのによい教材である。ボウリングのルールを守ることで、自制心を身につけ、クラスという集団で行動するのによい教材であることが分かった。クラスの生徒と触れ合うことで協調性を身につけることができる。また、社会性の促進にも子どもの感情を引き出すことができ、社会性の促進にもよい教材であることが分かった。

### 2節 今後の課題

今後の課題として、子どもの社会性を促進する運動遊びをこれからも検討していくことを本著の結びとする。

### 参考・引用文献

- 1) 飯塚恭一郎 (2012) 幼児のひとり遊びに関する一考察—生成 (Werden) としての遊びの概念を拠り所にして— 筑紫女学園大学筑紫女学園大学短期大学部紀要 P267-274
- 2) 石河利寛 (編) (1978) 子どもの発達と体育指導 大修館書店
- 3) 依田新監修 (1979) 新・教育心理学事典 金子書房
- 4) 伊藤昭義 (2015) からだとところを創る 幼児体育 日本放送出版協会
- 5) 代田盛一郎 (2011) 学童保育における遊びとその指導に関する実践研究(2)—ルールが顕在化した遊びとその指導— 大阪健康福祉大学紀要第10巻 P45-52
- 6) 加用文男 (2015) 「遊びの保育システム」の必須アイテム—保育のなかの遊び論〈Part2〉 ひとなる書房
- 7) クリエイティブプレイ研究会編 (1984) 遊びの指導エンサイクロペディア乳幼児編ハンディ版 同文書院
- 8) 佐伯胖監修・渡部信一編集 (2010) 「学び」の認知科学辞典 大修館書店
- 9) 杉原隆・河邊貴子 (編) (2014) 幼児期

- における運動発達と運動遊びの指導遊び  
のなかで子どもは育つ ミネルヴァ書房
- 10) David L.Gallahue／杉原隆訳 (1999) 幼  
少年期の体育発達の視点からのアプロー  
チ 大修館書店
- 11) 代田盛一郎 (2011) 学童保育における遊  
びとその指導に関する実践研究(2)ール  
ールが顕在化した遊びとその指導ー 大  
阪健康福祉短期大学紀要第10号 P45  
～52
- 12) 高橋真喜子 (2015) コミュニケーション  
力の発育促進を目的とする「遊び」の活用  
ー音楽療法における「演奏すること」と  
「遊び」の関連性を考えるー 鈴鹿短期大  
学大学紀要 35号 P49-61
- 13) 為末大 (2013) 「遊ぶ」が勝ち【ホモ・  
ルーデンス】で、君も跳べ！ 中公新書ラ  
クレ
- 14) 月岡英人 (2004) 「社会性の基礎」を育  
む「交流活動」・「体験活動」ー「人とかか  
わる喜び」をもつ児童生徒にー 国立教  
育政策研究所生徒指導研究センター
- 15) 津守真・津守房江監修 (1996) 子どもの  
生活遊びのせかい 婦人之友社
- 16) 東京都教育委員会 (2012) 東京都立知的  
障害特別支援学校  
中学部自閉症学級指導書社会性の学習
- 17) 藤永博 (2009) 幼児の運動技能と姿勢制  
御系の発達についてー運動遊びの志向が  
及ぼす影響に着目してー 和歌山大学経  
済学会 研究年俵 P1-30
- 18) ホイジンガ／高橋英夫訳 (1973) ホモ・  
ルーデンス 中公文庫
- 19) 前橋明 (編) (2015) 元気な子どもを育  
てる幼児体育 保育出版社
- 20) 本田秀夫・日戸由刈監修 (2016) 自閉症  
スペクトラムの子のソーシャルスキルを  
育てる本 講談社
- 21) 森田順子・井澤信三 (2010) 自閉症の社  
会的行動を促進する遊びの種類を検討
- 22) 文部省 (1993) 遊びの指導の手引 慶應  
義塾大学出版株式会社
- 23) 文部科学省 (2012) 共生社会の形成に向  
けたインクルーシブ教育システム構築の  
ための特別支援教育の推進
- 24) 文部科学省 (2013) 運動部活動の在り方  
に関する調査研究報告書ー一人一人の生  
徒が輝く運動部活動を目指してー
- 25) 文部科学省 (2006) 教育基本法 (平成十  
八年法律第百二十号)
- 26) 文部科学省 (文部科学省 2002) 子ども  
の体力向上のための総合的な方策につい  
て
- 27) 文部科学省 (2009) 子どもの徳育の充実  
に向けた在り方について (報告)
- 28) 文部科学省 (2009) 特別支援学校幼稚部  
教育要領特別支援学校小学部・中学部学  
習指導要領特別支援学校高等部学習指導  
要領
- 29) 文部科学省 (2012) 幼児期運動指針
- 30) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説
- 31) ピアジェ・エリクソン・他／赤塚徳  
郎・森林監訳 (2000) 遊びと発達の心理学  
黎明書房
- 32) ピアジェ／大伴茂訳 (1967) 遊びの心理  
学 黎明書房
- 33) ピアジェ／大伴茂訳 (1968) 模倣の心理  
学 黎明書房
- 34) 別府哲 (2009) 特別支援教育に関する教  
育心理学的研究の動向と展望ー自閉症  
児者の感情に関する研究を中心にー 岐  
阜大学教育心理学年報第48集 P143ー  
152
- 35) 谷田貝公昭 (2011) 子ども心理事典 一  
藝社
- 36) ロジェ・カイヨワ／多田道太郎・塚崎  
幹訳 (1990) 遊びと人間 講談社学術文庫
- 37) 渡辺久子 (2002) 子どもの社会性の発達  
母子保健情報第46号 P 80-84